

令和7年度 稲作情報 No. 5 津南版

令和7年8月4日発行

十日町地域農業振興協議会

JA 魚沼、十日町市、津南町、NOSAI 新潟魚沼支所
十日町農業普及指導センター

適期に収穫し、丁寧な乾燥・調製で高品質米へ！

- 出穂期3～6日前に葉色診断を行い、葉色が淡い場合は追肥しましょう。
- フェーン現象の予報が出たら、かん水しましょう。
- 出穂期後の積算温度を参考に収穫日を予測し、早めに収穫計画を立てましょう。
- 籾の黄化状態をよく確認し、適期（黄化率85～90%）に収穫しましょう。
- 乾燥・調製を丁寧に行い、人為的な品質低下を防ぎましょう。

1 出穂以降の水管理—異常高温の前にはかん水しましょう！

（1）基本の水管理

- 落水時期が早いと白未熟粒等が増加し、品質が低下します。
出穂後30日間は溝や足跡に水が残って土が湿っている状態を保ちましょう。
- ※常時湛水は、根を傷め、倒伏にもつながるため避けましょう。

（2）フェーン現象による異常高温時の水管理

- 天気予報等により事前にフェーン現象の発生日を把握しましょう。
- 用水が確保できる場合は、地域の用水計画に応じて高温の前日までにかん水しましょう。
- 用水確保が困難な場合は、水を確保できるうちにかん水しましょう。
- ※限りある用水を有効利用するため、かけ流し等を行わず、地域全体に水が行き渡るようにしましょう。

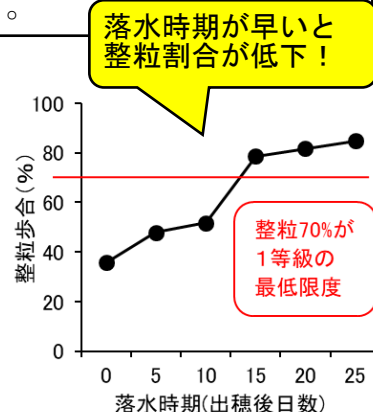


図1 落水時期と整粒歩合の関係

2 適期収穫—刈り遅れに注意！—

（1）収穫適期の予測

- 「収穫適期のめやす（出穂期後の積算温度）」（表1）や「刈取適期判定器」（設置箇所は表2参照）を参考に収穫適期を予測し、作業計画を立てましょう。
※積算温度による収穫適期はめやすです。生育ボリューム、葉色、地力、標高等により適期は異なりますので、必ずほ場で籾の黄化率を確認しましょう。
- 出穂期後10日間の最高気温の平均が高温（概ね33度以上）だと胴割れ粒の発生が増加します。高温で登熟した場合は、2日（積算温度で50℃）程度早く収穫しましょう。

表1 収穫適期のめやす（出穂期後の積算温度）7月30日現在

品種	出穂期後の積算温度		出穂期 (例)	収穫適期のめやす		【参考】 前年並の 気温の場合
	通常	高温登熟		通常	高温登熟	
五百万石	975℃	925℃	7/18	8/25	8/23	8/24
こがねもち	1,000℃	950℃	7/23	9/1	8/30	8/30
平坦地コシヒカリ (標高100～200m)	1,000℃	950℃	8/3	9/14	9/12	9/11
			8/6	9/18	9/15	9/14
			8/9	9/22	9/19	9/17
山間地コシヒカリ (標高400～500m)	1,000～ 1,050℃	950～ 1,000℃	8/8	9/23	9/20	9/18
			8/11	9/27	9/24	9/21
			8/14	10/2	9/29	9/25
新之助	1,050℃	1,000℃	8/11	9/27	9/24	9/21

注 山間地コシヒカリは標高452m、それ以外は標高170mの気温により算出

注 参考は、登熟期間が前年並の登熟気温で推移した場合の試算値

表2 刈取適期判定器（積算温度計）の設置箇所

平坦地 (積算温度1,000℃)	外丸 河原	正面原	十二ノ木原
	加用	中深見	今井
	羽倉		
山間・台地 (積算温度1,000～ 1,050℃)	午肥原	反里口原	中子
	米原	赤沢	大井平原
	上野		

○「出穂期後の積算温度表」は、普及センターHPやJA窓口で8月19日から公開します（毎週火曜日に更新予定）。



(2) 収穫適期の判断

○収穫は黄化籾の割合が85～90%になった頃です（図2）。

※茎葉の色は栽培条件や品種により異なるため、収穫適期は籾の色で判断。

○刈り遅れは胴割粒・着色粒等の増加による品質低下を招きます。

○適期収穫ができない時は、食味・品質確保のため、収穫作業等の委託も検討しましょう。

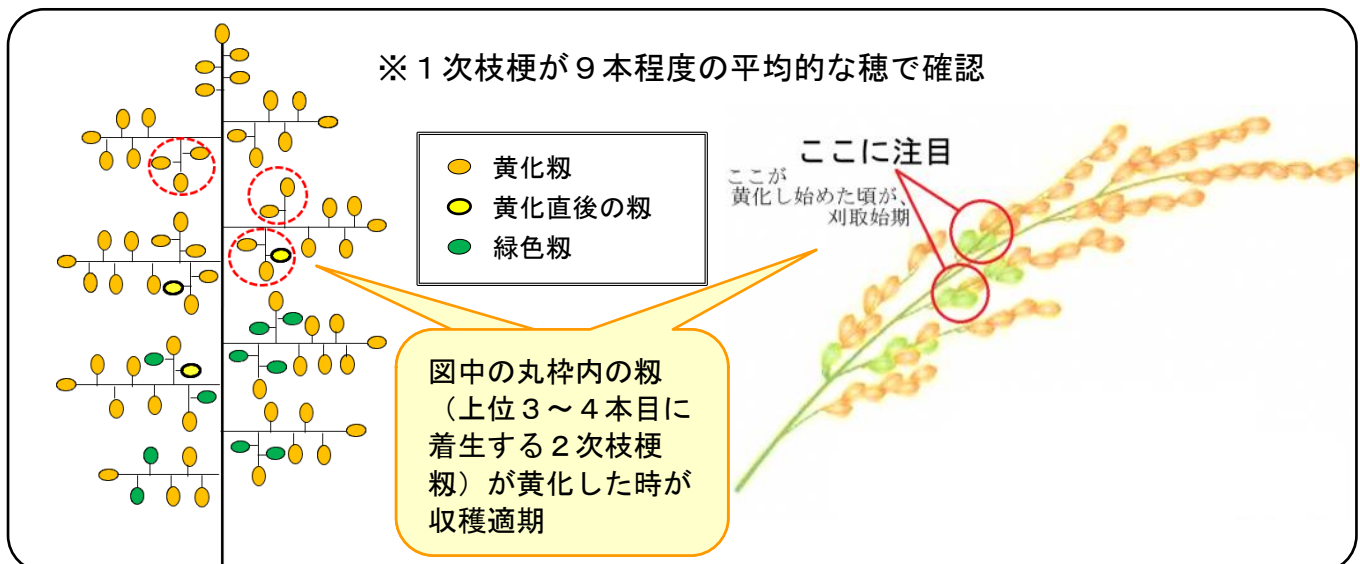


図2 収穫適期の黄化籾率 85～90%の状況（富山県、石川県）

3 乾燥・調製—人為的な格落ち（籾混入・胴割れ・肌ずれ）を防ぎましょう！—

(1) 乾燥

○仕上げ水分 15%を目標に乾燥します。 ※水分 14%以下になると食味は急激に低下します。

○乾燥温度や乾燥速度に注意し、食味低下及び胴割粒発生を防止しましょう（表3、4）。

○フェーン現象時の収穫や倒伏ほ場では、籾水分のばらつきが大きくなります。籾水分のばらつきが大きい場合は、水分 18～20%で乾燥を一旦停止し、半日程度貯留して水分ムラを解消した後、再乾燥を行いましょう。また、貯留のために乾燥を一旦停止する際は、通風循環で穀温を下げてから停止しましょう。

表3 初期水分と乾燥温度

初期水分	乾燥温度
24%	50℃以下
28%	40℃

表4 籾の状態別毎時乾減水分

籾状態	毎時乾減水分
通常	0.8%
立毛胴割粒籾有	0.5%

成熟期以降に乾燥と降雨が繰り返された場合は、胴割粒が発生しやすいため、送風温度を低めにしましょう！

(2) 調製

- 整粒歩合の高い米に仕上げるためには適正な粃摺り・選別で被害粒等を除去するのが重要です。
- 作業前にゴムロール間隔や流量を確認し、粃すりは粃の温度が常温近くまで下がってから行いましょう。
- 米選機の篩い目は1.90 mm以上を使用し、適正な流量で選別しましょう。
- 雑草の種子等が混入しないように、雑草は刈取前にほ場から除去しましょう。
- ※特にクサネムの種子は調製過程では取り除けないため、必ずほ場で除去しましょう。
- 稲こうじ病の病粒が混入した粃は、粃すり前に粃粗選機（ふるい目 2.7mm）を使うと、病粒の約 70%を除去できます。また、インペラ式粃すり機を使用すると病粒の混入を抑制できます。
- 色彩選別機を活用して斑点米や着色粒を除去し、高品質米に仕上げましょう。

表5 主な人為的格落ち要因

格落ち要因	主な原因
粃の混入・肌ずれ	ゴムロール間隔や流量の調整不足
胴割れ粒	刈り遅れ、急速乾燥
青未熟粒・未熟粒	早刈り、米選機への流量の調整不足
変質米・カビの発生	高水分粃の長時間の貯留、乾燥不十分
異種穀粒・異物の混入	倒伏、機械の掃除・調整不足



着色米



斑点米

4 土づくり一次年度に向けて、準備を開始しましょう！

- 異常高温年であっても「ケイ酸質資材や堆肥等有機物の施用」や「稲わらの秋すき込み」などの土づくりを継続的に実践している経営体では、1等級比率が高まる傾向でした。

(R5 土づくり等の実態調査アンケート(回答: 87 経営体)の結果より)

- 稲わらの秋すき込みは堆肥施用と同等の土づくり効果が期待でき、収量の増加に繋がるとともに、春すき込みに比べ、根腐れの原因となる硫化水素などの発生が軽減されます。稲わらの分解を促進するために、地温が高い10月中旬までに行い、深さは5～10 cmの浅うちとしましょう。
- 粃殻はケイ酸含有量が重量で20%程度含まれる有用資源です。水田から得られる粃殻(約120kg/10a)を全てほ場に還元すると、ケイカル80～100kg/10a 施用と同等の効果が期待でき、土壌物理性(通気性や透水性)も改善します。

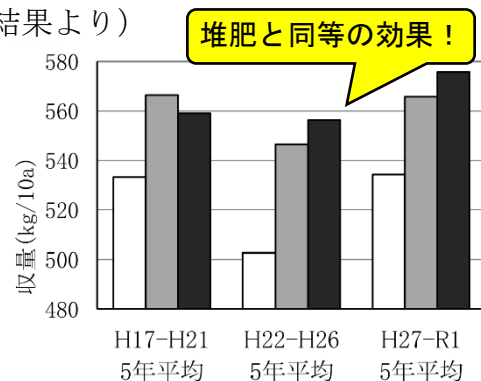


図3 有機物長期連用によるコシヒカリ収量推移 (H17年～R元年、農総研基盤)

※粃殻の多量施用は、窒素飢餓や土壌の強還元により、減収の危険があります。施用量に注意しましょう。

※稲こうじ病、ごま葉枯病等が多発生したほ場の粃殻は、伝染源となるため施用しない。

水稻栽培に役立つ情報を LINE で簡単に受け取れます！

- 本年の生育・気象状況に応じた栽培管理
- 緊急情報(フェーン・異常高温等)
- 基本栽培技術
- 研修会の案内 等



二次元コード読み取り
→簡単に友だち登録

ID 検索: @219dutchb

十日町農業普及指導センター(水稻情報)

JA 魚沼津南基幹営農センター(765-3123) 十日町農業普及指導センター(757-5516)

普及指導センターHP (https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/tokamachi_nogyo/suito.html)